

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 1 日現在

機関番号：34310

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2010～2011

課題番号：22830113

研究課題名（和文）無意識の獲得と変容：多重自動性モデルの提案

研究課題名（英文）Unconscious acquisition and change: A model of multiple automaticity

研究代表者

及川 昌典（OIKAWA MASANORI）

同志社大学・心理学部・助教

研究者番号：40580741

研究成果の概要（和文）：自己制御に伴う心的機能の働きを、意識的な自覚を伴う過程と伴わない過程に分類し、それらの過程の協働という観点からモデル化した。また、目標志向行動と誘惑や衝動の抑制に関する顕在指標と潜在指標を、直接比較可能な形で計測するための新たな測定法が開発された。一連の実証研究を通じて、意識的な体験の生起には、意識的な自覚の外で働く自動的な過程が、重要な役割を果たしていることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：A model of multiple automaticity was proposed to address the complementary roles of consciousness and the unconscious in self-regulation. New measures of explicit and implicit goals and temptations were developed to enable direct comparisons of these action tendencies. Initial empirical evidence consistent with the multiple automaticity account were obtained, such that unconscious processes operating outside of conscious awareness plays a crucial role in emergence of conscious experiences.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,240,000	372,000	1,612,000
2011年度	1,140,000	342,000	1,482,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,380,000	714,000	3,094,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会心理学

キーワード：意識，無意識，自己制御，顕在指標，潜在指標

1. 研究開始当初の背景

自らの認知、感情、行動を意識的に監視し、望ましい状態を維持しようとする意図的な心的機能の働きとして、自己制御を捉えようとする旧来の試みには、自己報告の歪み、行動予測力の低さ、逆説的効果などの点から限界が指摘されてきた。

2. 研究の目的

本研究では、環境の制約と習慣が葛藤する

日常場面において、自己制御に伴う心的機能の働きを、意識的な自覚を伴う過程と伴わない過程に分類し、それらの過程の協働という観点からモデル化した。また、その妥当性を実証的に検討することを目的とした。

3. 研究の方法

日常の自己制御において重要な役割を担うと考えられる、目標志向行動と誘惑や衝動の抑制に関する一連の顕在指標と潜在指標を直接比較可能な形で計測するための新たな

な測定法が開発された。また、日用品を用いた刺激作成など、生態学的な妥当性を高めた実験材料の作成が試みられた。その通文化的妥当性を検証するために、日本およびオランダで実施された実験結果の比較が行われた。

4. 研究成果

一連の実証研究を通じて、意識的な体験の生起には、意識的な自覚の外で働く自動的な過程が重要な役割を果たしていることが示唆された。また、顕在指標ならびに潜在指標の国際比較においては、多重自動性モデルによる予測と整合したパターンが観察された。その成果の一部は、国内外の学会および学術論文、図書などで報告済みである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① Ruys, K. I., Aarts, H., Papiers, E. K., Oikawa, M., Oikawa, H. (2012). Perceiving an exclusive cause of affect prevents misattribution. *Consciousness and Cognition*, 査読有り, 21, 1009-1015.
- ② Oikawa, M., Aarts, H., & Oikawa, H. (2011). There is a fire burning in my heart: The role of causal attribution in affect transfer. *Cognition and Emotion*, 査読有り, 25, 156-163.
- ③ 及川昌典・及川晴 (2011) 無意識と社会心理学：感情研究へのインプリケーション, 感情心理学研究, 査読有り, 18, 121-124.
- ④ 及川昌典・及川晴 (2010) 無意識の認知, 行動, 動機づけ：同化効果と対比効果のメカニズムと調整要因, 心理学評論, 査読有り, 53, 483-496.
- ⑤ 及川昌典・及川晴 (2010) 自己制御における意識と無意識：意識的編集と目標プライミングの効果, 心理学研究, 査読有り, 81, 485-491.

[学会発表] (計8件)

- ① Oikawa, M. & Oikawa, H. (2012). Too much of a good thing: How plethora of choices disrupts feeling of self-agency. Poster presented at *13th annual conference of the Society for Personality and Social Psychology*. 1月27日, San Diego, California.
- ② 及川昌典・及川晴 (2011). 無意識の決定はどう意識されるのか? 流暢性と自由意志感覚の関係, 日本社会心理学会第52回大会, 9月18日, 名古屋大学.

- ③ 及川昌典 (2011). 潜在的態度 (Implicit Attitude) とは何か? 認知心理学, 行動分析学, 社会心理学の対話, 日本心理学会第75回大会, 9月15日, 日本大学.
- ④ Oikawa, M. & Oikawa, H. (2011). The road taken: How fluency influence feeling of self-agency in decision making. 12th conference of the Society for Personality and Social Psychology, 1月29日, San Antonio, Texas.
- ⑤ 及川晴・及川昌典 (2010). 危機的状況における予測と実際：新型インフルエンザへの対応. 日本心理学会第74回大会, 9月22日, 大阪大学.
- ⑥ 及川昌典 (2010). 社会的認知の二重性：適応的無意識から日常体験との乖離まで. 日本心理学会第74回大会, 9月20日, 大阪大学.
- ⑦ 及川晴・及川昌典 (2010). 他者の制御努力が自己制御に及ぼす影響：目標と情動の感染. 日本社会心理学会第51回大会, 9月18日, 広島大学.
- ⑧ 及川昌典 (2010). 社会心理学と無意識. 日本社会心理学会第51回大会, 9月17日, 広島大学.

[図書] (計3件)

- ① 及川昌典 (2012) 金剛出版, モティベーションを学ぶ12の理論, 135-160.
- ② 及川昌典 (2011) 風間書房, 自己制御における意識と非意識の役割, 198.
- ③ 及川昌典 (2010) 誠信書房, 展望現代の社会心理学1『個人のなかの社会』, 37-47.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

及川 昌典 (OIKAWA MASANORI)
同志社大学・心理部・助教
研究者番号：40580741